

研究主題 「自他を大切にし、夢や目標に向けてよりよく 生きようとする生徒の育成」

～「考え、議論する道徳」の視点に立った授業の創造～

三芳町立三芳中学校

1 研究主題の設定理由

本校の学校教育目標「格好いい中学生」を具現化するためには、他者を尊重する思いやりの心に加え、倫理観や規範意識を高めていくことが重要である。また、近年、不登校生徒が増加傾向にあり、周囲の人・集団・社会との関わりを大切にし、望ましい人間関係を構築できる力を育成することが喫緊の課題であると考えます。

このことを踏まえ、道徳教育において、自分の考えを持つとともに、互いの考えを尊重しながら議論し合える道徳教育へ転換していくことで、相手を思いやる心や人間関係を構築できる力の育成につながっていく。その際、ICTを教材提示や議論の手立てとして効果的に活用したり、TTによる指導を充実させたりすることで「考え、議論する道徳」の視点に立った授業を確立し、自他を大切にしながら夢や目標に向けてよりよく生きていこうとする生徒を育成するために本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 新学習指導要領の趣旨やねらいを踏まえ、指導方法の在り方を明らかにするとともに ICT の活用や TT による指導を充実させることで、「考え、議論する道徳」の視点に立った授業を確立し、自他を大切にしながら夢や目標に向けてよりよく生きていこうとする生徒を育成することができるであろう。

3 研究の経過

時 期	研修会等	内 容
4 月	研究推進委員会	・今年度の研究内容・分担の確認
5 月 1 6 日 (月)	校内研修	<講演会> 演題：「考え、議論する道徳」の授業を実現するための指導方法について 講師：西部教育事務所 指導主事 茂木幸子 様
7 月 1 2 日 (火)	授業研究会	1 年 1 組 篠原一浩 教諭 「近くにいた友」 <指導講評> 指導者：開智国際大学教育学部 教授 土井雅弘 様
7 月 1 3 日 (水)	授業研究会	2 年 1 組 藤原瑞樹 教諭 田山のどか 教諭 「名乗り出なかった友」 <指導講評> 指導者：東京学芸大学大学院 教育学研究科 特任教授 永田繁雄 様

令和4年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

8月	校内研修	・校内研修会 各研究部の活動内容の確認
9月16日(金)	校内研修	3年2組 萩原大貴 教諭 「言葉の向こうに」 <指導講評> 指導者：川島町立西中学校 校長 佐藤香織 様
10月20日(木)	授業研究会 講演会	1年 和合嘉子 教諭 山崎大輔 教諭 「自分だけ『余り』になってしまう・・・」 2年 宿野部悠 教諭 小村政広 教諭 「泣いた赤鬼」 3年 児玉幹生 教諭 岸野直子 教諭 「2通の手紙」 <指導講評> 指導者：埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事 芳賀一行 様
10月28日(金)	道徳教育推進 モデル校事業 研究授業発表会	指導者：東京学芸大学大学院 教育学研究科 特任教授 永田繁雄 様 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 課長 渡辺洋平 様 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事 芳賀一行 様 埼玉県教育局西部教育事務所 学力向上推進担当指導主事 茂木幸子 様
1月～3月	校内研修会	今年度のまとめと来年度の計画
3月	いのちの授業	1～3年生対象 「いのちの授業」 講師：三育大学 母性看護学 助教 中理恵 様

4 研究の内容

(1) 授業研究部の取組

① ICT授業研究部

- ・実感を伴える資料提示や自分ごととしてとらえられる教材提示等にICTの活用を取り入れていく。
- ・意見や考えをとりまとめたり、提示したり工夫したりする話合いの手立てにICTを活用し、生徒が「見方・考え方」を自在に働かせられるようにする。

② TT授業研究部

- ・令和元年度より実施している学年ローテーション授業にTTを組み入れる。TTの授業では、役割分担を行うことで授業の流れをスムーズにし、発問の方法を工夫することで、生徒が活発に意見を言える環境をつくる。
- ・TTによる道徳の授業を実施することで、多面的、多角的に考えることを促し、生徒の考えに寄り添い、内面に働きかける支援を充実させる。



③ 県独自の道徳教材の活用

- ・1学年では、「豊かな日本を目指して～日本近代経済の父・渋沢栄一～」の教

令和4年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

材を取り扱い、大河ドラマとの内容も絡めながら「埼玉の偉人」について学習し考えを深めた。

・2学年では、「上級学校を訪ねて」の教材を取り扱い、学活で行った進路学習を関連させ、きまりやマナーを守ることの大切さを考え議論する道徳の授業に取り組んだ。

・全学年において、日常の学校生活や各行事の場面で、「心のほっとストーリー」を活用し、道徳性の育成に努めた。

(2)環境整備部の取組

①道徳コーナーの設置

・教材ごとに、生徒の道徳ノートの記述内容を載せた掲示物（題材、価値項目、イラスト写真等を載せる）を作成し、各教室や道徳コーナーに掲示する。

②校内の環境整備

・校内の様々な場所（階段、廊下、トイレ、手洗い場等）に、道徳的価値に関する掲示物を掲示する。



(3)調査研究部の取組

・生徒の実態や意識の変容を把握するために、道徳に関するアンケートを行った。3回の変容を分析し、数値が低い項目を向上させるように、学年で話し合いながら、授業の進め方や、板書、発問の工夫をしていく。

5 研究の成果と課題

(1)成果

○教職員・生徒に定着していたローテーション授業にICTやTTの授業を組み込むことにより、授業がより活発になった。

①タブレットを使用した授業について

・発表が苦手な生徒も考えを伝えることができ、また、多くの意見に触れることができた。

・学級全体の意見を瞬時に把握し、共有することができ、すぐに活用し、話し合うことができた。

②TTによる授業について

・板書、ワークシート配布、範読等で役割分担することで時間の短縮が図れ、考えさせる時間を十分にとることができた。特に意見を聞きながら板書をすることで、多くの意見を吸い上げることができた。

・机間指導、話し合い活動、ワークシート記入では、複数の目で生徒を見ることができた。話し合い活動では、多くの班に助言することができ、より活発になった。また、議論をするときに対立の構図をつくることができた。

・複数で行う安心感が指導者・生徒共にあり、普段消極的な生徒も話し合い活動に

令和4年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

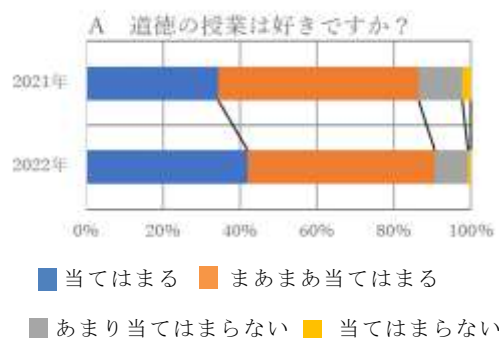
積極的に参加していた。

○道徳に関する掲示物を掲示することで、学級や学年の生徒の意見を知り、授業で考えたことをさらに深めることができた。

○道徳科や各教科、特別活動を通して、「規律ある態度」を育むことの重要性を考えさせることができた。また、生徒会の取り組みで「あいさつ運動」を行い、あいさつの慣行を意識させることができた。

○アンケートを行い、実態を把握し、授業の工夫をすることにより、「道徳の時間が好き」「自分の生き方・考え方に影響する」「自分にはない考えに気づく」「友達の考え方に気づく」の項目について数値の向上が見られた。

○「規律ある態度」の達成状況は、挨拶に関連した質問項目を中心に向上が見られた。



(2)課題

○ICTを取り入れた授業については、使用する手段が目的になってしまったり、話し合う場面で静かになってしまったりする場面があった。しかし導入で使うアンケート等は集約した資料をわかりやすく掲示することができた。従ってタブレットの使用は、授業者が明確な意図をもち、生徒に深く考えさせるためのツールとして、「考え、議論する道徳の授業」を展開していく工夫が必要である。



○T Tの授業については、事前準備の段階で綿密な打ち合わせが必要である。その中での役割分担を明確にし、連携を図ることが大切になってくる。そのことでより価値のある意見を取り上げて全体に周知し、意見をさらに深めさせる声かけをT 1 T 2それぞれがどう働きかけるかが課題である。また、生徒の発言やワークシートへの記載内容を複数の目で把握し、意図的な指名ができるようにするために、どの場面で深く掘り下げ、どのような発問を準備するかを十分打ち合わせを行い、生徒が考え議論していく中で「納得解」を得られるような授業を展開していきたい。

○3回のアンケート調査の結果、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標がある」「自分の思いを表現できる」の項目においての数値がやや低い実態があるので、さらなる道徳の授業の充実や、環境の整備を行い、自己肯定感を高め、将来の夢や目標を持てるようにさらに授業の充実を図ると共に、道徳環境を整備していきたい。そして、本研究テーマ「自他を大切にし、夢や目標に向けてよりよく生きようとする生徒の育成」に努めていきたい。